

「戦争をする国」信用を失う

社会保険労務士

(広島県 56)

長女が9日にインド南部ベンガロール(バンガロール)へ出発した。目前の3日、「ダッカ邦人7人死亡」という朝刊の見出しが私の目に飛び込んできた。

テロ事件が起きたバングラデシュといえはインドの隣国だ。コンサルタント会社に勤務する長女は、現地に進出する日本企業の経営を支援する業務で任地に赴いた。親としては引き留められるものなら引き留めたかったというのが偽らざる心境だ。

日本が世界と友好関係を築けたのは、憲法9条あればこそ。この平和憲法を失えば、日本は

世界から不信を招く。また、「戦争をする国」と見なされれば、日本人もますますテロの標的になるのではないか。

現政権は解釈改憲で集団的自衛権行使容認を閣議決定し、安全保障法制を成立させた。テロは確かに卑劣な行為だが、仮に娘にもしものことがあったとしたら、私はテロを憎むと同時に他国の戦争に加担する道を開いた現政権を憎むだろう。

今回の参院選の結果により、憲法改正への動きは避けられない。もはや人任せでは済まされないのだ。私は声を上げ続ける責任を痛感している。「国民の不断の努力」(憲法12条)が今こそ問われているのだと思う。